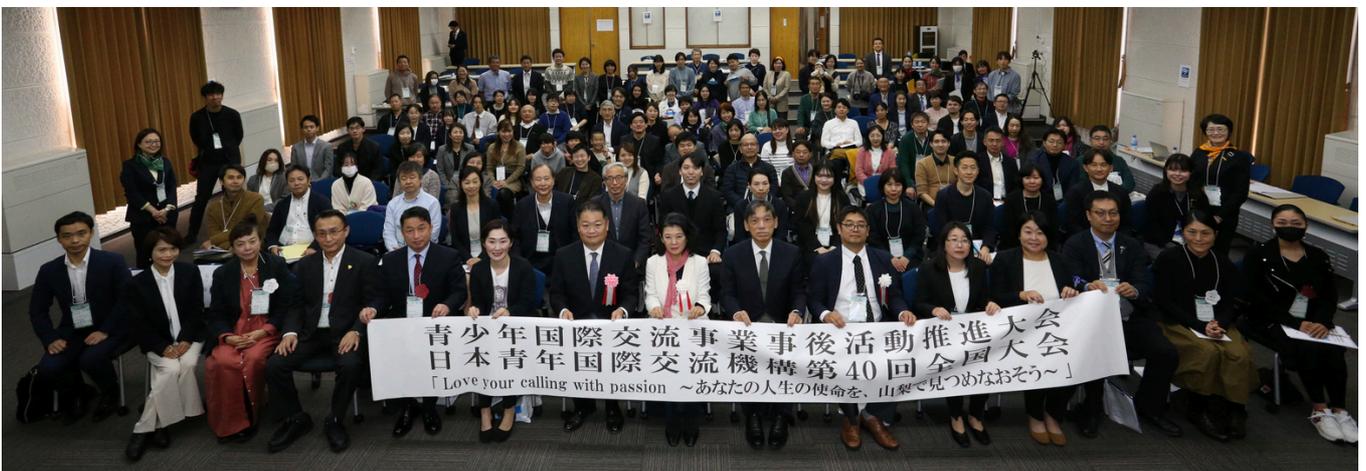
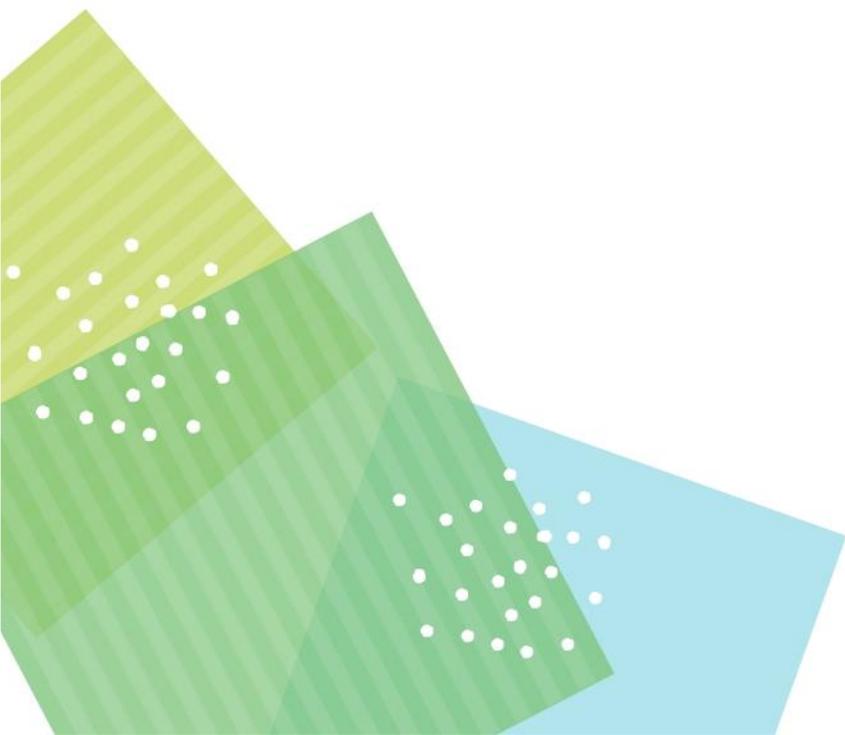


HUMANO

2025.3 VOL.11



人と人とのつながり



目次

01 白木会長からのメッセージ

02 日本青年国際交流機構
第40回全国大会 in 山梨県

03 第31回東南アジア青年の船事業
20周年同窓会

04 第4回世界青年の船事業 同窓会

05 Meetupイベント

IYEO 広報誌 HUMANO vol.11

編集・発行 日本青年国際交流機構(IYEO) International Youth Exchange Organization of Japan
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階

E-mail: iyeo.press@gmail.com ウェブサイト: <http://www.iyeo.or.jp>

HUMANOは会員手作りの広報誌です。一緒に活動するメンバーを大募集中!

編集: 衣川玲奈、三宅香菜子、横倉萌子、有江幸司 デザイン: 三宅香菜子



01 白木会長からのメッセージ

皆様、このたび会長に就任いたしました白木邦貞（しらきくにさだ）です。私は日本青年国際交流機構（IYEO）の会長として、そして一人の挑戦者として、この場を借りて私の決意を表明させていただきます。

IYEOにおける私の使命は、社会や次世代に架け橋を作ること、IYEOは変わっていきけるのだということを会員の皆様と作っていくことです。

そのために、私は常に現場の最前線で走り続けます。現場での活動こそが、社会の真のニーズを捉え、解決策を見出す原動力だと考えています。

しかし、それだけでは十分ではありません。どれだけ素晴らしい活動や挑戦であっても、社会にしっかりと届け、広めていかなければ、その意義は薄れてしまいます。

私は、現場での経験を基に、その価値を「見える化」し、IYEOそして社会全体にその成果を伝えるための仕組みを構築することに取り組んでいきたいと思えます。

今、IYEOの現場、特に地域の現場では何とも言えない先の見えない状況にあるのではないのでしょうか。

今までのやり方をこれからも同じように続けていく先に未来がないと思っています。

私が特に注力したいのは、新規入会者、そして、新しく担い手として役員になった方々へのオンボーディングです。若い世代にしっかりと目を向け、彼らに選ばれる活動と組織を作り上げることです。

未来を担う若者たちにとって、IYEOは単なる同窓会の場所ではなく、自らの力を試し、成長できる場であればきっと意義を感じ、たとえ入会金を払っても入りたいと言ってくれると信じています。

そのためには、常に若者の声に耳を傾け、彼らが共感し、意欲的に取り組める活動を提供していくことが必要です。

そして、彼ら彼女らが失敗してもよい、思いっきり挑戦できるコミュニティや組織を作ることこそが、未来への鍵だと思っています。



私の任期が終わるとき、先輩たちが築いてきてくれたこのIYEOの本質的な良さは残しつつ、新しい世代のみんながやりたい！ やって良かったと思ってもらえるような活動や組織運営に再構築し、新しい世代に引き継ぎたいと思っています。

IYEOは常に進化し続ける組織であり、次の世代が新たなリーダーシップのもと、さらに高い目標に向かって挑戦していくことが必要です。私はそのために、挑戦し続ける姿勢を体現し、次世代が自信を持ってバトンを受け取れるよう、全力で取り組んでいく所存です。

IYEOは私にとって単なる一ボランティア組織ではなく、私の人生にとっても大きな影響を与え、それこそLife Changing Experienceとなった重要な存在です。

このコミュニティそして内閣府の青年国際交流事業がより良い形で次世代へと受け継がれ、広がり深まり豊かな生態系として育っていくことを支えることが、私が最も大切にしている使命です。

皆様と共に歩み、学び、挑戦し続けたい。私は全力で走り続けます。

どうか引き続き、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。



02

日本青年国際交流機構 第40回全国大会 in 山梨県

日本青年国際交流機構（International Youth Exchange Organization of Japan 略称 IYEO）では、内閣府、地方公共団体等が行う青少年国際交流事業の既参加者、国際交流に関心のある青少年等が全国から集まり、各地域における事後活動の推進状況を報告したり、参加者間の全国的なネットワークの構築など事後活動を更に充実させるための方策について積極的に意見交換を行ったりすることを目的に、毎年全国大会を開催しています。

今年は、2024年11月9日(土)から2日間かけて、青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第40回全国大会 第31回青少年国際交流全国フォーラム in 山梨が開催されました。本イベントは、「Love your calling with passion～あなたの人生の使命を、山梨で見つめなおそう～」をテーマに開催され、180名が参加しました。



基調講演では、「今を重ねて生ききる～私の使命、アフリカ・アジアでの実践をとおして～」をテーマに、日本、ニジェール共和国、バングラデシュ等の女性支援の活動を行い、山梨の地を拠点に社会起業家として活躍している、新津茉莉花（にいつまりか）さんにお話をいただきました。新津さんはJICAでの国際協力活動を通して発展途上国が抱える社会課題と出会い、Calling（使命感）をもってそれらの課題に向き合っています。彼女の経験から、参加者は、自らの生き方を見つめなおし、自分らしさとは何か、それぞれの使命とは何かを考える機会を得ました。最後に、参加者は人生で大切にしたいことや目標を色紙に書きました。



分科会では8つのテーマに分かれて、それぞれ山梨にゆかりのある講師が、ここでしか体験できない活動を提供しました。例えば、「Passion for Replica foods」では、日本人の繊細さや細部まで丁寧に作る勤勉さが表れている食品サンプルの作成が体験できるワークショップが開催されました。また、「Passion for Japanese tradition」では、山梨県の郷土かるた「やってみるじゃん甲州かるた」の開発者を講師招き、地元山梨を題材にしたかるたを体験し、また参加者それぞれが出身地域にまつわるかるたを作成し、国際交流や国際理解の場での活用例を話し合いました。





事業参加報告会では、「世界青年の船」事業に参加した2名が、事業参加のきっかけや参加後にどのように変化したかを報告しました。山梨県青年国際交流機構（山梨県IYEO）の活動報告では、特に内閣府事業の地方プログラムのホームステイで参加青年とホストファミリーの満足度が非常に高いことが報告されました。



おまけショット📷

会場からは
きれいな富士山が
見えました！



翌日には、地域理解研修オプションツアーが開催されました。ツアーは2種類あり、そのうちの一つは「富士山ツアー」です。参加者は山梨の観光地である富士五湖の一つ、河口湖や大石公園を散策しました。もう一つの「ソーシャルハウス『宝島』ツアー」では、参加者は地域のコミュニティ拠点となっている「ソーシャルハウス宝島」に訪問しました。ここでは、高齢者サロンや子育て支援など多様な活動を行っています。



03

第31回東南アジア青年の船事業 20周年同窓会

第31回「東南アジア青年の船」事業 20周年同窓会の感想 田畑静吾

私達の代は、2004年に「東南アジア青年の船」事業に参加させて頂いたのをきっかけに、5年に一度同窓会を開いてきました。2009年京都府、2014年神奈川県、2019年群馬県、そして、この度2024年は島根県にて9月14日～15日に実施されました。

この20周年の同窓会開催目的を「事業中、事業後に日本全国・東南アジア一円に育まれた「繋がり」を再確認し、お互いの情報交換をすることで、今後の「ご縁」をさらに結び直そう」として、献身的なご助力を実行委員の皆様から頂きながら、同窓会が企画されました。参加者は、ブルネイ、マレーシア、フィリピン、シンガポール、日本の参加青年、管理部、ナショナルリーダーとその家族、友人で、総勢29名となりました。

初日は松江駅に集合し、貸切バスで出雲大社へ移動し、バスの中では古事記、日本書紀、出雲風土記に詳しい参加者の出雲解説に耳を傾けました。その後、出雲大社への参拝、神門通りでの買い物をした後に、松江に戻りました。宍道湖クルーズではお天気にも恵まれ夕陽が沈む瞬間を見ることができ、宿泊するホテルで夕食会が開かれました。



夕食会では、当時の中田昌和「東南アジア青年の船」事業管理官（2004年）からオンラインでのご挨拶、亀井亜紀子代議士（島根県選出国會議員で「世界青年の船」事業出身者）からの祝辞、坂本達ナショナルリーダーの講演、日本青年国際交流機構（IYEO）白木邦貞会長からのビデオメッセージを頂き、歓談の時間には参加者間でお互いの近況報告や、情報交換をすることができました。



会場内のスクリーン上では、日本中、世界中で暮らしている同期の仲間やその家族ともオンラインで繋がることができました。また、参加者の皆様が日本各地から持ち寄って頂いたお土産や協賛品を頂きました。二次会の場では、船上で書いた「10年後の自分へのメッセージ」を読む機会もあり、昔を振り返りつつ、今の自分を見つめ直す時間を過ごすことができました。



2日目は、朝食をホテルで頂き、宍道湖を背景に記念撮影が行われました。フェアウェルセレモニーが行われた後に、松江城散策、堀川遊覧めぐりなどグループに分かれて松江を楽しみ、昼食を頂いた後に解散となりました。

同窓会の出欠確認を通して、関係者の安否確認をする機会ともなり、夕食会冒頭にはこの間亡くなられた方の黙祷をする機会もありました。

参加者の中には、1週間前の案内で参加を決め、金曜日の深夜便でマニラ

から羽田空港に、土曜の午後に羽田空港から出雲空港に、そして帰国時にはオーバーナイトフライトで翌日10時から仕事の会議に参加してくれた参加者がいたり、他にも、子連れ、ロストバゲージ、携帯の電池がきれるといった複数のトラブルを抱えながらも、何とか集合場所にたどり着いた仲間もいました。

同窓会後の感想としては、「私達も年を重ねており、5年後はもっと老いてるだろうから、5年と言わずもっと早く開催して～」という声もあり、次回は5年より早く次の場所（山梨県）で開催されるかもしれません。

「東南アジア青年の船」事業でご縁のあった仲間が集まると、不思議な力が結集し、想像以上の力が発揮されることを目の当たりにした2日間でもありました。お互いが足りないところにすぐ気づき、さっと行動する、補い合い助け合う、そんな夢のような心地よい空間を改めて体感させて頂きました。

結びに、「同窓会の企画は、何となく大変そうだな～」と思われる方も多いかもしれませんが、是非そうした機会が巡ってきたら、受けて頂ければと思います。何年も会えていなかった友人でも、昨日あったかのような感覚で会話ができ、思いもよらない奇跡が連続するような感覚になるかと思っています。この度は、20周年同窓会の感想を掲載させていただく機会を頂き、ありがとうございました。

04 第4回世界青年の船事業 同窓会

■日南田美幸さんのご紹介

企業で働く傍ら、日本語ボランティアに参加。日本語を教えることを通して、外国の方との関わり方に加え、日本について学ぶ機会となる。また、国際交流イベントの企画運営や通訳ボランティアに参加し、そのボランティア活動が実を結び、第4回「世界青年の船」に参加。その後、結婚を機に国際交流協会に勤務。IYEOの活動についても、富山県IYEO事務局長、会長等、複数の役職を経験され、全国大会やブロックイベント、地方プログラムを受入も経験。現在は北信越ブロック幹事として活動している。

Q 「世界青年の船」の経験やIYEOの活動で得たものはありますか。

A まず、船での経験は、多様な文化や宗教への理解や、世界中の方とのネットワーク構築につながったと思います。日本語ボランティアや国際交流活動等を通じて、様々な国の方と活動したり、関わってきましたが、船内ではアラブ諸国の方々に初めてお会いし、多角的に物事を見ることの大切さを学びました。多様性を体験しながらも時間が経つにつれて「みんな同じなんだ。」と思ったことを今でも覚えています。そして、現職ではイスラム教徒の方と交流する機会を提供できたらとイベントに盛り込んできました。IYEOの活動ではイベントの企画運営について学び、さらに人脈を広げることができたように思います。

Q 下船後から現在まで、どのように参加青年との関係を維持されてきましたか。

A 下船時は「もう一生会えないだろう」と、みんなで下船する外国参加青年たちを“涙・涙”でお見送りしました。結局、下船後は寂しくなって、電話番号や住所を片手に各地に遊びに行きました。その後、E-mailの普及に伴って、数名の外国参加青年と繋がり始め、2008年の第20回「世界青年の船」がオマーンに寄港にするタイミングで初めて集まることとなりました。そして、みんなの熱い想いが通じたのか、Facebookにより国内外で繋がり、スペイン参加青年の発案・企画で20周年を記念した同窓会をスペイン・マドリードで開催。そしてコロナ下でのオンラインミーティングを通じ、30周年記念にエジプト、32周年記念を2024年6月にハンガリーで、各エジプトやハンガリー青年の発案・企画で開催。ハンガリーではオンラインで容易に繋がることができ、オンラインで多くの参加もあり近況を報告し合いました。

◎ 海外でのリユニオンではいつもどのような雰囲気ですか。

△ 出会った瞬間は、しばらく離れていた家族の再会のような感動シーンに溢れますが、すぐにみんな昨日まで乗船していたように、ブランクは感じられず、すぐ『あの日々』に戻れるのは不思議です。現地プログラムも学びあるプログラムを準備してくれていて、表敬訪問もあつたりと、世界船のプログラムの延長のように錯覚するぐらいです。

また、2024年6月開催のハンガリーでの同窓会でも、船内で歌っていた歌をみんな何度か歌っていました。当時の日本のナショナルリーダー三浦博史さんもオンラインで参加いただき、次は東京での開催に決まりました。34年ぶりの日本での再会をみんな楽しみにしています。

コロナ下、カナダや湾岸諸国GCC（湾岸諸国オマーン、バーレーン、UAE）主催のVirtual Assemblyに参加して感じたのが、みんな本当に想いが熱く、参加年度や国が違っても世界船の参加者というだけで、不思議と話も尽きないんですよね。懇親会は何時間も続きました。



参加青年宅でのガーデンパーティー
（ブダペスト）



世界で3番目の大きさのシナゴーク見学
（ブダペスト）

◎ 実際に熱い思いを感じられた出来事がありますか。

△ ある日、「グッズ作ってみた！」と海外青年から連絡があり、同窓会が開催されると、共通のロゴが入ったグッズが作られました。これまでに、ポロシャツ、Tシャツ、バッチ、水筒、バックなどがあります。企画したい、グッズ制作したい、といった様々な熱い想いを、それぞれの参加青年が自由に形にしているように思いますね。



ハンガリーでの同窓会 記念グッズ 12

05 Meetupイベント

IYEO広報チームでは、ゲストを招いたMeetupイベントを開催しており、第一弾、第二弾について、ご紹介します。

第一弾

2024年8月3日にMeetupイベント第一弾を開催しました。
ゲストはYouTubeチャンネルが大人気のアンジーさんとせいけさんです。

第一部の講演会では、アンジーさん&せいけさんのキャリアについて普段では聞けないような仕事の舞台裏エピソードや、日本と海外との文化の違いについて実体験に基づくエピソードをたくさんお話いただきました。

Q&Aタイムでは、参加者からの英語に関する質問や今後のキャリアの展望についてなど幅広い質問に答えていただきました。

第二部のワークショップでは、参加者が留学コンサルタントになりきり、各チームで「おすすめの留学先」を議論し、ピッチ形式で発表しました。

最後の発表では、熱のこもったプレゼンテーションが繰り広げられ、とても盛り上がりました。優勝したチームには、事務局が用意した海外のお土産がプレゼントされました。

初対面の方も多くいましたが、アンジーさん&せいけさんの楽しいお人柄のおかげで終始和やかな雰囲気、笑いが絶えない楽しいイベントとなりました！イベント後は懇親会が開かれ、アンジーさん&せいけさんと直接交流できる貴重な機会として、多くの参加者がお二人との会話を楽しんでいました。

参加者からは「アンジーさん&せいけさんと直接お話ができて最高でした！」と嬉しいコメントをいただきました。



第二弾

2025年1月25日にMeetupイベント第二弾を開催しました。

ゲストは、世界27カ国52大学を飛び回り、日本国際化推進協会を創設した大村貴康さんです。

第一部のパネルトークではゲスト大村さんのこれまでのご経歴について、学生時代に行かれた世界一周のスポンサー獲得のお話から、一般社団法人を立ち上げ、現在取り組まれていることまで興味深いエピソードを沢山お話しいただきました。

第二部のワークショップでは参加者が「日本留学経験のある外国の方の力で、どんな日本の魅力をどのように発信していくことができるか」そして「魅力を伝えてくれる方に対して、活動にどうお金以外の付加価値を感じてもらおうか」について議論し、ピッチ形式で発表しました。難しいお題でしたが、プレゼンでは私たちの想像以上に内容の濃い発表ばかりで、オンライン参加者も積極的にご参加くださり大いに盛り上がりました。

第三部では現地参加の参加者でケータリングを用いた懇親会を行いました。初対面の方も多量中、大村さんはじめ、参加者の前向きなご参加のおかげで、終始会話の絶えない楽しい時間となりました。



